



茨城のスポーツ少年団

第32号 発行／平成24年3月21日 編集／財団法人茨城県体育協会茨城県スポーツ少年団

TEL 029-226-9972 FAX 029-226-9973 URL <http://www.ibaraki-sports.or.jp/ibarakiken/>



平成23年度 関東ブロックスポーツ少年団指導者研究協議会 (11月19日～20日 茨城県開催)

11月19日・20日の両日、ひたちなか市のホテル・クリスタルパレスにおいて関東地区の指導者の代表が集い開催されました。

初日は、スポーツ少年団やスポーツ基本法に造詣が深い静岡理工科大学の富田寿人准教授を講師にお招きし、『日本スポーツ少年団50年のこれまでとこれから』と題し講演が行なわれました。

変化の激しい時代の中で少年の発育と共に年齢に応じた指導者の関わり方が重要であること。各単位団も体力アップはもちろん、楽しむスポーツを提供できることが不可欠であること。そのため、指導者の資質向上や連携が必要となってくるという内容の講演をいただきました。

分科会では、地城市町村の指導者協議会のあり方について、その重要性や資質向上等々について、活発な意見が交換されました。翌日の全体会では、今後も日本スポーツ少年団と連携を取りながら進めていくことを確認しました。運営委員の献身的なご尽力により無事終了することができました。

あいさつ

茨城県スポーツ少年団

本部長 高山 能昌



日頃から、指導者、保護者の方々は、スポーツ少年

団の育成に格別のご尽力を賜り厚く御礼申し上げます。

平成二十三年・二十四年度の役員として決意を新たに、活力溢れるスポーツ少年団の歴史を築くべく努めて参りますので、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

今年度は、関係の皆様のご努力にもかかわらず、東日本大震災の影響もあり、登録数を減らす結果になりました。併せて指導者の皆様には活動場所の確保等に御苦労されたことと思います。献身的なご尽力に改めて感謝し厚く御礼申し上げます。

スポーツ基本法が制定され、次代を担う青少年の体力の向上や地域社会の再生が大きな課題となっています。スポーツに取り組みとうする全ての子ども達が心も身体も健康に育ち、笑顔のある生活が送れる様にするための、大きな力となる魅力あるスポーツ少年団の運営を目指し、取り組んでいきたいと思っています。

終わりに、各単位団の発展とご健勝を心からお祈り申し上げ、あいさついたします。

平成二十三年・二十四年度

茨城県スポーツ少年団の組織

茨城県スポーツ少年団役員

本部長 高山 能昌

副本部長 飯島 利武・飯屋 茂

市川 浩之

常任委員 額賀 茂樹・鈴木 孝子

稲葉 智之・宮下 英彌

相田 弘之・吉澤 好一

赤羽 英夫・藤田 佳史

五十嵐雅高・皆川 直司

滝 伸一・味原 俊男

鬼澤 榮・高橋 二郎

遠藤 守・相沢 俊一

幸田 成生・尾崎 貞夫

鈴木 茂徳・関 仁一

加藤 孝幸・永瀬 裕啓

野口 文男・小松崎 一郎

友部 利秋・関口 毅

柏崎 勝美・清水 敏治

高橋 勇・額賀 富雄

吉澤 和彦

専門委員会

スポーツ交流委員会

委員長 関 仁一

副委員長 永瀬 裕啓

委員 尾崎 貞夫・鈴木 茂徳

加藤 孝幸・野口 文男

小松崎 一郎・大高 一芳

友部 利秋・関口 毅

柏崎 勝美・清水 敏治

高橋 勇・額賀 富雄

上級リーダー指導委員会

委員長 吉澤 好一

副委員長 水野 幸男

委員 赤羽 英夫・富永 尚司

佐藤 正信・瀬谷 佳代

小室 誠・柏原 朋美

大川 朋子

普及・広報委員会

委員長 糸賀 睦夫

副委員長 友部 静江

委員 鈴木 孝子・小鹿 威郎

鈴木 修一・水野 幸男

会沢 一夫

指導者協議会運営委員会

委員長 飯屋 茂

副委員長 額賀 茂樹・鈴木 孝子

稲葉 智之・宮下 英彌

相田 弘之

市毛 英弘・大岡 紀一

豊田 博昭・滝 伸一

菱沼 一夫・高橋 二郎

糸賀 睦夫・恩田 實

野口 進・友部 静江

吉澤 好一・水野 幸男



スポーツ少年団指導者研修会

9月3日
小美玉市

小川サッカースポーツ少年団

水野 幸男

平成二十三年九月三日小美玉市小川文化センターアピオスに於いて開催されました。基調講演として『スポーツ少年団これからの50年』と題して本県スポーツ少年団団員OBであり、リーダー活動経験もある日本スポーツ少年団課長の江橋千晴氏にスポーツ少年団を取り巻く現状や将来像について国の施策や子供たちの体力等のデータを交えて講演を頂き、活動の現場で指導している指導者にとって視野を広げる話を聞くことができた。グループディスカッションでは『指導者のあり方』『リーダー育成について』『スポーツ大会について』について種目／各団の置かれた環境、指導者の経験をまじえて参加者同士の活発な意見交換、ベテラン指導者からのアドバイス等ができた。また、本研修会は数少ない指導者の研修・意見交換の場であることから参加者からは受講者増員や討議時間延長など研修会に対する期待の声が多く寄せられました。今後、研修会の充実が求められています。



平成23年度

日本スポーツ少年団

表彰盾授与式

9月3日
小美玉市

受賞の言葉

牛久市スポーツ少年団

本部長 宮下 英彌

この度、全国表彰を受けて指導者一同これまでの活動努力が認められたものと大変嬉しく思います。これも諸先輩、地域の皆さん、行政の支援の賜物と深く感謝しております。設立当初より指導者研修、母集団研修と指導者の資質向上に力を入れてきました。現在、子どもたちの体力向上を目指して体力テストを一昨年から実施し、今後も継続していく予定です。また、活動上の安全安心をテーマに昨年よりスポーツツケアセミナーとして、テーピング講習会、救急救命講習会を始めました。

た。

私たち指導者がこれからの少年団活動を充実させていくには、スポーツができる喜び、スポーツの楽しさ、スポーツを通しての感動と、そして生涯スポーツ活動が続けることの意味を子どもたちに受け止めてもらえるよう指導していき、また、次世代の日本を担う人材を

スポーツを通して育成していくことが大切と考えます。日本スポーツ少年団五十年を迎えるにあたって私たち指導者ももう一度少年団の理念に立ち返り、子どもたちと一緒に考えて考える時がきていると思います。



潮来市スポーツ少年団

本部長 笠間 丈夫

今回の受賞は、身に余る光栄であり、スポーツ少年団の理念を揺るがず育成指導にあたってまいります。

近年、少子化や社会環境の変化、価値観の多様化など、ス

ポーツを取り巻く環境は変化しておりますが、スポーツへの憧れ、基礎体力や基礎的な技術の積み重ねが重要となり、指導者の資質向上も大きな柱であり、地域でスポーツ少年団を運営するにあたり、まず安全第一、そして地域から親しまれ、愛され、応援していただける少年団であり続けることが必要であります。

そのためには、指導者も常に子供達と共に進歩発展に向かう心を失ってはならないと考えております。子供達の目線に立って指導していく事は、なかなか難しいことですが、心がけていくことであります。三月の震災により、各少年団の中には、震災のご家族も多くあり心の面でも支援が必要な場合もあり、運営上に心を中心に考える少年団の広さが不可欠であります。今後も、多種多様なことが起こると存じますが、自己の研鑽はもちろん、地域、子供達の本来の姿を活かした少年団の運営にこそ力を割いて参ります。大変に有り難うございました。

平成23年度

スポーツ少年団 女性指導者フォーラム

1月14日
筑西市

女性フォーラムに参加して

上山川スポーツ少年団

岩岡 智子

一月十四日、筑西市で開催された「女性指導者フォーラム」には私は団員の保護者という立場で参加させて頂きました。

講演をされた山口操先生は、早くから少年団を結成され福井県スポーツ少年団本部長を経験されたとても行動力のある方でした。

「私とスポーツ少年団」という演題の中で、子供を育てるには『夢を与える、褒める、自主性を持たせることが大切』というお話が心に残りました。私は、夢を与えるどころか、親のほうが目先の結果に「喜・憂」先を見ない事に気づき、先生のように広い心で接し、子供に良い影響を与えられる大人でありたいと思いました。

午後からのグループディスカッションでは、「少年団活動の現状と課題」というテーマで、運営委員の方が座長となられ自己紹介から始め、コミュニケーションの大切さを考えながら、話し合いを進めることができました。問題に挙げられたのは、練習時間、団員の減少、少年団本部で発せられている情報

が団体によっては届き方に差があるなどでした。練習時間や団員の数は個人競技、団体競技によって、問題に違いがあり同じ定義で考えるには難しいと思われました。情報に関しては、個人や団体側から直属の機関に働きかけ、情報が止まることのないよう本部から団体ひとりひとりまでのパイプを強くするなどの意見が出ました。その他、練習以外の活動についても、多く意見交換をする事が出来ました。

今回のフォーラムを通して、少年団という組織を学び、日頃お世話になっている指導者の方を始め、多くの方のご苦勞に支えられ、子供たちが活動させて頂いている事に深く感謝いたしました。そして、この経験を子供たちに伝え、親子で夢を持ち成長していきたいと思えた有意義な一日でした。



第38回 日独スポーツ少年団 同時交流受入事業

7月20日
～8月11日
ドイツ
ヘッセン州

日独同時交流に参加して

横山 まどか

私は、今回の日独交流を通して二つの事に感動させられました。

一つ目は、ホームステイの家族です。二組のホストファミリーにお世話になったのですが、どちらも仕事を休んで私達の為に、ドイツの観光スポットや、日本ではなかなか体験出来ない事を体験させてもらいました。また、本当の家族のように接してくれたので、とても充実して過ごせました。

二つ目は、今回の地震についてです。ホームステイの家族などが、私達が住んでいる所でとても大きな地震が起ったことや、原子力発電の事など知っていてとても心配してくれました。日本で地震が起きた時は、家に電話をかけてみてなど、とても親切にしてもらいました。ドイツのカッションでは、ドイツの方が一日でも早くみんなが幸せに生活出来る事を祈っています。など言われた時は、自然と涙が出ました。

このように、日独交流では、出会いがたくさんあり、今でも連絡を取り合うなど、大切な存在の人になりました。この経験は、色褪せる事のない一生の思い出になりました。



つくば市スポーツ少年団

事務局 高巢 文子

今年、八月につくば市での受け入れは三度目となる、日独交流事業でドイツから十二名を受け入れる予定でありましたが、東日本大震災の影響で受け入れ事業が中止となりました。とても残念だったので、それに変わる事業として、つくば市在住・在学の外国人の方々を募り、「日本文化と武道体験」を開催いたしました。八月六日(土)つくばカピオには、約六十名の方の参加がありました。お国も、中国・アメリカ・ブラジル・インド等様々でしたが、少林寺拳法、和太鼓、なぎなたの演舞を興味津津で見学をしていました。

その後、一つ一つのものを実際に体験して頂きました。少林寺拳法では、型と立ち合いの実践をしました。和太鼓は、みなさんリズム感が素晴らしいので、初めから一緒に演奏を楽しんで頂くことができました。なぎなたは、初めて見る人も多かったのですが、型やなぎなたの扱いをとって上手にこなしました。短い時間でしたが、みなさん、真剣に取り組んで和気藹々と大変楽しい時間を共有できたと思います。言葉以外に通じあえるものをお互い感じる事ができました。今回は、ドイツからの受け入れをすること

つくば市国際交流事業報告

8月6日
つくば市

ができませんでしたが、是非機会があれば、日独交流事業を行いたいと思っております。



平成23年度

ジュニアリーダーズスクール

6月18日
～19日
土浦市10月29日
～30日
水戸市

若鯀スポーツ少年団

中村 美由香

私はこのジュニアリーダーズスクールに参加して、様々なことができました。

まず、講義です。私はこの研修日程をみた時、「なんだ、この講義の量は。」と、とても驚きました。しかし、実際に講義を受けてみると、とてもわかりやすく楽しい講義でした。一時間以上の長い時間でも集中が続き、スポーツ少年団への知識・理解が深まり、有意義な時間を過ごせました。

次に、体力テストです。正直あまり自信が無く不安でしたが、直前のスポーツ活動で緊張がほぐれました。結果は、もう一つでしたが、精一杯頑張ったし、またこれから体力をつけていくという目標が出来たので良かったです。

そして、リーダーの方々が工夫して運営していたレクリエーションです。どれを振り返っても楽しいものばかりでした。また、同じ班のメンバーと仲良くなる絶好のチャンスでした。是非少年団へ持ち帰り団員のみんに教えてあげたいです。

私はこの二日間を通して、リーダーになる為にどんな事が必要か、なんとなく分かった気がします。それは、何でも素直に積極的に取り組むことです。また、活動を通して出会った仲間、活動に参加しないと出

会えなかったことを感じました。だから、このような活動を大切にしていこうと思いました。

坂戸岩瀬ミニバスケットボール

スポーツ少年団

加藤 真弥

ぼくは、ジュニアリーダーズスクールで特に印象に残っているのが、二つあります。

一つ目は、講義です。「スポーツ少年団とは」で、スポーツ少年団団員が全国第三位ということです。なぜかという、最初に思ったのは十位未満だと思ったからです。しかし、三位で団員数約四万人だと知ってビックリしました。

二つ目は、「スポーツ少年団のリーダーとは」です。その講義の中で先生は、「そもそも、リーダーとは先導者」という位置です。「あれやれ」「これやれ」などではなく、「一緒にやろう」という精神が必要だと知って驚きました。これを聞く前は、反対だと思っていたからです。

この研修会でジュニアリーダーになります。その先のシニアリーダーになりたいです。また、参加したいです。

豊浦サッカースポーツ少年団

小川 文哉

ぼくは、リーダーズスクールに参加して学んだことが三つあります。一つ目は、スポー

ツ少年団は制限があり、二十歳までということなどいろいろな事を学びました。

二つ目は、講義でなくレクリエーションで遊んだ事です。ダンス、猛獣狩り、人間知恵の輪などいろいろな遊びをして、とても楽しかったです。

三つ目は、体力テストです。ぼくは、飛田さんという友達とペアになり、テストを受けました。上体おこし、腕立て伏せ、時間往復走、立ち幅跳び、5分間走です。腕立て伏せは、男子は、高いところから、あごを地面につけないといけないうのでとても大変でした。

最初は、知らない人がいたけど、昼ご飯を食べたら、仲良くなって、とても良かったです。本当に二日間とっても楽しかったです。また、参加したいと思いました。



第47回

県スポーツ少年団大会

7月29日～31日 土浦市

久米サッカースポーツ少年団

加藤 浩豊

ぼくは、初めての参加でしたが、楽しかったことが五つあります。

一つ目は、入浴です。入浴時間が三分から五分しかなかったのが、急いで頭と体を洗って、急いで体をふき、急いで出るのでとてもあわてました。でも忘れ物をお風呂にしまったので無事出られました。

二つ目は、ウォーキングです。ぼくはクイズを答えることと、アルファベットをメモする係でした。でも、途中でレオくんヒドくんといふかをしてしまい、結局六番目になつてしまいました。でもアルファベットと、クイズに正解すれば、まだ順位は分らないので、安心しました。何位になるのかとても楽しみです。

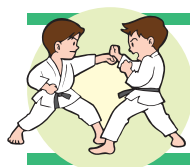
三つ目は、レクリエーションです。「かえるのよまわり」では、いっぱい練習し、スピードが早くてもできるようにしました。今度はさらに早いスピードにしようせんしたいです。「マクドナルド」は、リーダーが思っていることを読み取って、ポーズで表現するゲームです。「猛獣狩りに行こうよ」というゲームは、猛獣の名前の数でグループになる人数が決まります。ぼくは

がんばってグループに入りました。「サザエさんゲーム」は、7人のグループを作って、いろんな役を決めました。ぼくはカツオの役になりました。三回目に「学校の時間ですよ。」と言われたので、カツオちゃんとワカメちゃんの役の人は他の所へ入らなければいけません。ぼくはなんとか入ることができたのでとてもうれしかったです。

四つ目は、キャンプファイヤーで、いろんなダンスをしたことです。特に「ジギスカン」は、とても踊りが分かりやすかったので、楽しく元氣よく踊りました。一番最後の盆踊りは、キャンプファイヤーが始まる前に一回踊っていたので、華やかに踊れました。その後に、火をつけたばうをもつて、みんなでわを作り、その後にリーダーたちが作ったアーチを通して、部屋にもどりました。

五つ目は就寝時間です。一日目はよく眠れましたが、二日目は午前三時四十五分に、大きな地震があつたので起きてしまいました。窓から見た景色は、明かりが灯った、夜みたいになっていて、とてもきれいでした。「夜景はやっぱりきれいだなあ。」と思いました。

三日間うれしかったり、ハプニングがあつたり、とても楽しかったです。茨城県立中央青少年の家にまた来年も行きたいです。



一年のあゆみ



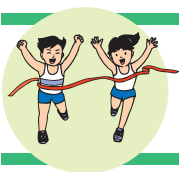
第28回茨城県スポーツ少年団スポーツ大会 H23.6～H24.1 (県武道館他)



茨城県・栃木県スポーツ少年団リーダー交流会 H23.12 (栃木県)



関東ブロックスポーツ少年団リーダー研修大会 H23.11 (埼玉県)



一年のあゆみ



関東ブロックスポーツ少年団競技別交流大会 H23.7 (群馬県)



第42回関東ブロック少年大会H23.8 (千葉県)



茨城県スポーツ少年団大会H23.8 (県立中央青年の家)



ジュニアリーダースクールH23.6 (県立中央青年の家)
H23.10 (水戸市少年自然の家)

がんばってあります！

県北 常陸太田市山田スポーツ少年団

『スポーツ少年団で磨いた剣道の道』

代表指導者 平根 典明

山田スポーツ少年団は、剣道を主体とする少年団です。市町村合併前（平成十六年十二月一日合併）は、水府村は剣道の村とも言われ、諸先輩達が残したて呉れた貴重な剣道の育成を主体として、少年少女に剣道を通して、礼儀を重んじ、忍耐力の涵養、基本を重視した指導を行っております。その他地域への遠征等にも活躍し、指導員と団員との絆を深めると共に、保護者との親睦を深めることを目的として活動しております。

少年団結成当時は、男女共に二十数名で盛会であつたが時代の流れは容赦なく、少子化によって団員数も少なくなり、現在団員数は、小学生一年生二年生五年生六年生の十名にて剣道の錬成に頑張っております。活動は山田小学校体育館を利用し、毎週土曜日午後5時30分より午後7時30分、翌日曜日は午前8時30分より10時30分迄錬成しております。団員の送迎は保護者に協力を頂き感謝しております。他地域への遠征についても

指導者と保護者が一体になって、団員の意欲を発揮出来るよう励ましあっております。

少年団の活動については、種目だけを指導するのは常であるが、団員に心の余裕を与え団活動を豊かなものにし、団活動を更に充実させることを念頭に、指導者一丸となって団活動に頑張っております。

当写真は、神奈川県海老名市の岩尾征夫先生の道場一行が錬成のため来県した際に、当少年団と共に錬成に参加した記念の写真です。

「茨城がんばっぺい」



県央 茨城町バドミントンJr.スポーツ少年団

代表指導者 桃井 雅和

茨城町バドミントンJr.スポーツ少年団は、平成二十一年に設立した若いクラブです。毎週土曜日の午前中、町内の小学校の体育館を借りて活動しています。バドミントンは、二人集まれば基本的な練習やゲームができるという手軽さが魅力ですが、その運動量は非常に激しいスポーツです。また、ラケットの使い方やフットワークなど、初めてバドミントンに触れる子ども達には意外なことも多く、少し難しいスポーツであることも事実です。

週に一回、約二時間半の練習時間ですので、「みるみる上達」という訳にはいきません。しかし、毎回練習を続けているうちに、それまでできなかったことが徐々にできるようになります。そんな姿を見てみると、成果は確実に出ていると感じております。

当クラブでは、バドミントンの技術的な指導はもちろんですが、生活面での指導は特に注意しております。「脱いだ靴はそろえておく」「掃除道具はきれいにしまう」「体育館の備品は丁寧に扱う」「ラケットやシャトルなどの道具は大事に使う」

といったことを、毎回徹底しております。子ども達にはうるさく聞こえるかもしれませんが、これらのことはスポーツに限らず、日常生活全てにおいて大事なことでと考えております。

バドミントンという競技を通じて、子ども達とともに私自身も成長できるよう、今後もがんばって活動していきます。



鹿行 麻生フェニックスJr.スポーツ少年団

指導者 宮川 晋

茨城県内では、四番目のハンドボールスポーツ少年団として行方市において活動を開始し、これまでに、全国大会出場、東日本大会準優勝、関東大会優勝等の実績があり、昨年末の読売杯大会では、東北関東の強豪を相手に三位入賞を果たすことが出来ました。



現在は、男女併せ三十一名の部員と七名のコーチで週二回、市内の体育館でハンドボールを楽しんでいます。

ハンドボールは、その特性上、投・走・跳の三要素を含み、身体接触を伴った激しい競技です。声を掛け合い、自分達で判断しながら全員で攻守を行う為自主性やチームワークを重視した練習指導を行っています。

卒団生も百名を超え、全日本や実業団で活躍する選手もおりますが、彼らも含め、年に一回三百名余で小学生から父兄まで一緒に参加するハンドボールフェスを開催しています。

卒団生も成人後、コーチとして一緒に後進の指導にあたっており、これからもスポーツを子供たちと共に楽しんでいけたらと思います。

県南 江戸崎パイレーツスポーツ少年団

代表指導者 稲津 達

江戸崎パイレーツ野球スポーツ少年団は数名の甲子園出場選手を送り出している、創立二十九年の伝統ある少年団です。チームのモットーは「全員野球」です。子供達だけでなく監督・コーチそしてご家族も一緒に野球というスポーツに取り組み、子供達の成長をみんなで応援することで指導者も家族も成長していければと考えて指導を行っています。

年々スポーツをやらない子供達が増え、私達のチームも少ない人数で試合に臨む事が多く、なかなか良い結果を残すことができませんが、試合に負けても子供達の「やる気」を継続させるため、練習から泣いたり喜んだりし、ご家庭で練習の話をすることによって子供達のモチベーションを



継続させています。

今年度は少ない人数にもかかわらず優勝旗一本を取り、ジュニアの大会でも優勝することができました。これも全員野球の賜物ではないかと思っています。これを励みに子供達と一緒に優勝を夢見て活動して行きたいと思っています。

県西 守禮館空手道スポーツ少年団

「夢は全国大会優勝」

代表指導者 池羽 洋次

「オスッ」ここは街なかの小さな道場です。昔、店舗だった所に手を加え、空手道場としてのです。守禮館空手道スポーツ少年団の団員は十二名。小さな道場ですが、熱心な指導で定評のある師範と、その指導を懸命に受け止め、練習に、励む子供達との息はぴったりです。現在、黒帯は二人、昨年は関東大会の大舞台で、第二位という好成績をおさめた団員もおります。毎週、月、木、土曜日の七時から二時間近くの練習の中で、空手の技にみがきをかけ、空手道の心を学ぶ子供達には、大きな目標があります。

団員の数は少ないけれど、皆、空手が大好きで、向上心は人一倍、強いのです。だから、目標は大きく、全国大会優勝！

子供達が一番イキイキとするのは、「組手」という実践方式の練習です。

空手は礼節を重んじるスポーツですから、実践方式の練習では、技はもちろん、心を鍛え上げる事を目的としています。

だから、この道場の一番の誇りは、礼儀正しく、しかも生き生きと練習に励む子供達です。決して恵まれた広さの練習場ではありませんが、学年の違う子供達が、入り交じり、空手の技を競い合い、交流し、互いに高め合うという光景が生まれています。どの子にも、しっかりと指導者の目が、行き届き、がんばれば指導者だけでなく、先輩にも認めてもらえるといった良さがあります。今日も「守禮館空手道スポーツ少年団」は、一歩一歩、目標に向かって、練習に励んでいます。「オスッ」



平成二十三年度 生涯スポーツ功労者 及び生涯スポーツ優良団体について

文部科学省では、地域または職場におけるスポーツの健全な普及及び発展に貢献し、地域におけるスポーツの振興に顕著な成果をあげたスポーツ関係者及びスポーツ団体を、「生涯スポーツ功労者」及び「生涯スポーツ優良団体」として表彰しており、本年度、茨城県スポーツ少年団から2名の方を推薦し、このたびは飯屋茂氏、鈴木孝子氏が受賞されました。

表彰を受けて

東金沢バドミントンスポーツ少年団

鈴木 孝子

この度は、文部科学大臣より生涯スポーツ功労者賞を頂き身の引き締まる思いです。私はスポーツ少年団に出会って早二十七年が過ぎようとしております。その間、私はスポーツ少年団で出会った子供達、仲間、諸先輩の指導者の先生方々に支えられてここまで参りました。私の人生の中で、スポーツ少年団は私の宝物です。これからもこの受賞に驕る事なく、新たな気持ちになって、微力ながら後継者の育成に力をそそいで参ります。

生涯スポーツ功労者を 受賞して

茨城県スポーツ少年団副本部長

飯屋 茂

スポーツ少年団の育成にかかわって以来、四十年になる。生涯スポーツの基礎づくりを目標にし「より早く始め、より遅くリタイアして、より永く活動する」理念を実践して来たつもりであるが、振り返って見ると、今、これで良いのか反省のしきりである。一人でも多くの子ども達に、スポーツのおもしろみ、楽しさを知ってほしいと強く願うばかりである。スポーツ百年、スポーツ少年団五十年、スポー



第10回東ブロックスポーツ選手権 リーダー研究大会に参加して

11月5日～6日
埼玉県

久慈スポーツ少年団

宇佐美 聡菜

私は上級リーダー指導委員会の水野副委員長とリーダー3名で参加させていただきました。

研究大会では、リーダーの人数不足の現状や将来どのような指導者になりたいかという2つが、特に印象に残っていました。茨城県を含め、各都道府県でも年々リーダーが減っているということを、改めて実感しました。それに対する各県の取り組みが報告になりました。各県さままでした。他県のアイディアを茨城県でも実践できそうなものはやっていきたいと思いました。

さらに皆が、将来どのような指導者になりたいかについては、リーダー会の指導者として自覚し、スポーツ少年団でスポーツ専門指導者になりたいという人もおりましたが、私はどのような形でも、好きなスポーツ少年団には関わってきたいと思いました。これから多くの他県のリーダーと連携をとりながら、茨城県開催県となる平成24年度関東ブロックスポーツ少年大会を大成功させていきたいと思っていますし、リーダー会の皆と良き思い出をつくりたいと思いますのでよろしく願います。

第49回 全国スポーツ少年大会に参加して

8月5日～8日
岐阜県

浜田ジュニアバドミントン

スポーツ少年団

鯉沼 志帆

私は、夏休みに「全国スポーツ少年大会」に参加しました。

8月5日から8日まで「全国スポーツ少年大会」が岐阜県高山市で開催され、北海道から沖縄まで約四百人が参加されました。

初日から、小中高生混合の、十六班に分かれての活動です。最初は初対面同志少し緊張しましたが、一緒に食事や入浴をして会話をしているうちに、段々互いに打ち解けていきました。そんな仲間達と、二日目は乗鞍岳剣ヶ峰登山をしました。悪天候の中、励まし合い、助け合い、共に困難を乗り越えて頂上を目指しました。

三日目のSHIPS活動では、班対抗で様々な競技に挑戦し、順位を競います。皆で一致団結し、頑張りました。また、キャンプファイヤーでは、一緒に歌い笑い楽しい時を過ごしました。

最終日は、言うまでもなく、皆涙を流しながら、再会を誓い合っ

ることが出来ます。私は、これからも積極的にたくさんの方に活動に参加し、多くの友情を築き、経験を重ねて、自分自身を成長させていきたいと思っています。



第42回 関東ブロックスポーツ少年大会に参加して

8月24日～26日
千葉県

東金沢バドミントン

スポーツ少年団

金子 美香

私は、関東ブロックスポーツ少年大会に参加して、楽しかったことが二つあります。

一つ目は、たくさんの友達ができただけです。私は、同じスポーツ少年団の子といっしょに行くはずでしたが、その子が、体調が悪くなり、一人で行くことになりました。最初は不安でしたが、同じ六年生のともだち以外でも、中学生や高校生の友達ができ、とてもうれしかったです。

編集後記

まず最初に、東日本大震災で被災されました皆様に、心よりお見舞い申し上げます。

今回の震災で「絆」という言葉を良く耳にしましたが、スポーツ少年団は、正に皆様の「絆」の元に成り立って来た少年団だと思っています。

頑張っている子供達の姿はとも輝いていて、元氣や勇氣、諦めない心を教えてくれます。本号も頑張っている姿や活動をたくさんご紹介しました。お忙しい中、原稿をお寄せ頂き本当に有難うございました。

普及・広報委員会

委員長 糸賀 睦夫
副委員長 友部 静江
委員 鈴木 孝子
小嶋 威郎・鈴木 孝子
水野 幸男・会沢 一夫

1000万人の保険 小さな掛金・大きな補償 スポーツ安全保険

文化活動、ボランティア活動でも
ご加入いただけます。

★5名以上の団体が対象

■子供(中学生以下)の団体

スポーツ・文化・ボランティア・地域活動	A1	800円
上記に加え、個人活動も対象	AW	1,450円

■大人(高校生以上)の団体

文化・ボランティア・地域活動・団体の送迎、応援、準備、片付け	A2	800円
スポーツ活動(ダンス・踊りを含む)、スポーツ活動の指導・審判	C	1,850円
子どものスポーツ活動の指導・審判	AC	1,300円
スポーツ活動(65歳以上)	B	1,000円

■危険度の高いスポーツ活動(全年齢) D 11,000円

■短期スポーツ教室(全年齢) * Web限定 800円

補償内容など、詳しいことはこちらまで

(財)スポーツ安全協会茨城県支部

H24年度から掛金が改定になります。

〒310-0911 水戸市見和1-356-2 TEL.029(300)4710

<http://www.sportsanzen.org>

